ふらべじ

Flower&Vegetable

Vol.6 1998. 2. 28
雪解けの号

発行　北海道立花・野菜技術センター　滝川市東滝川７３５　TEL（0125）28-2800　FAX（0125）28-2299

地中海に映る白い家並み

ユリ

カサブランカ

Lilium × 'Casa Blanca'

「この花の名前は？」と聞かれて皆さんはどう答えますか。
多くの人が「ユリ」ではなく「カサブランカ」と答えてしまうのではないでしょうか。それほど有名な、また人気のある品種です。スペイン語で「白い家」という意味のこのユリは１９８４年にオランダで誕生しました。しかしそのルーツはというと、ヤマユリやカノコユリといった日本原産のユリ。日本では実に多種多様なユリの姿を見ることができるのです。これら日本のユリが江戸時代から明治にかけてヨーロッパへと渡り、多くの人々を魅了してきました。そしてさらなる美しさを求めて、新しいユリが次々と作られています。

去る1月19～23日、北海道農業試験会議（成績会議）が開催され、花・野菜関係の多くの研究成果が普及されることになりました。

当センターが提出した中から3課題をご紹介しましょう。

たまねぎ秋まき栽培の総合技術ー野菜第二科、土壌肥料科

たまねぎの作期を拡大することは、価格の安定化のためにも、また、野菜の自給率を向上させるためにも非常に重要です。そこで、たまねぎの全国的な端境期である7月中旬から8月上旬にかけて、北海道のたまねぎを収穫・出荷できる新しい作型、「秋まき栽培」に関する試験を平成元年から平成9年にかけて行い、栽培指標を策定しました。栽培のポイントは以下の通りです。

★栽培のポイント★

☆適応地域☆
年内に積雪の見込める道央地域
☆圃場☆
透水性が良く、融雪期に停帯水が発生しない圃場
☆適応品種☆
秋まき用中晩生品種
☆播種期☆
8月中旬で移植栽培
☆定植期☆
9月下旬～10月上旬

☆施肥☆
基肥（定植時）窒素5kg／a、りん酸20kg／a、加里5kg／a
分肥（融雪後）窒素5kg／a、加里5kg／a
☆病害虫防除☆
圃場観察により、必要に応じて2～5回
☆根切り時期☆
倒伏揃いから7日後頃
☆収穫時期☆
完全枯葉期に収穫。
手取り収穫では、根切り後1週間で収穫可能。

デルフィニウムの品種特性Ⅱ
花き第二科

デルフィニウムは暑さに弱いので、暖地では普通、秋に定植して翌年の春に採花します。北海道の冷涼な気候を活かして、春に定植して夏から秋にかけて採花する作型において、種子系固定種4品種、種子系F1品種3品種、栄養系2品種の特性を調査しました。採花数については栄養系の「スペースファンタジー」が最も多く、続いてF1品種がやや多い結果となりました。〈写真：プリンセスカロライン〉

かぼちゃの品種特性ー野菜第一科

かぼちゃは最近新しい品種が次々と発表され、産地でも従来広く栽培されてきた「えびす」に替わるより美味しい品種が求められています。総計45品種を比較した中で、収量性、食味などを総合的に評価し、15品種が「えびす」と同等以上と判断されました。

これらの中には、緑皮、白皮、黒皮、お尻の尖るものやそうでないものなど、様々なタイプのものがあります。これらの特徴を活かすことにより、産地の特色を出しやすい品目といえるのではないでしょうか。

総合評価の高かった品種

黒緑色・扁円の品種・・・「メルヘン」、「S－102」
黒緑色・栗型の品種・・・「くりあじ」、「ケント」
黒緑色・短紡錘形の品種・・・「九重栗」
濃緑色・扁円の品種・・・「みやこ」、「くりじまん」、「だるま」、「錦大黒」、「うねび」
緑色・栗型の品種・・・「がんこ」、「栗太郎」
灰緑色・栗型の品種・・・「ゆきこ」
灰白色・扁円の品種・・・「白馬」、「とっておき」

これらの研究成果は、専門技術員を通じて各地区農業改良普及センターに伝えられ、活用されます。

第３回　ガンバレ！　新農業人いんたびゅ～

ガンバレ！　新農業人いんたびゅ～

今回の若き農業者は鵡川町の野木伸行さん。
かつて大学の史学科で鎌倉文化を研究していたという経歴の持ち主です。

◎まずは自己紹介をお願いいたします。
・昭和４７年５月２７日生まれで家族３人で経営しています。平成８年から就農し、水田９ ha、大豆１ ha、ハウス３棟でホウレンソウを作っています。もともと農家を継ぐ気はなかったのですが、大学の友人が実家を訪ねてきて、鵡川町のすばらしい環境をうらやましがるものですから（笑）。それで、農業もいいかなあと思ったんです。
◎これからどんな農業経営を行って行きたいですか。
・平成１０年から花作りに取り組みたいと思っています。具体的にはアルストロメリア、グラジオラス、フリージアなど。まずは自分の作った花が地元で評価されるような花作りを行っていきたい。できれば直売店などを設けて、地元の人がたくさん買いに来てくれるようなお店に。こういったことから鵡川町の花が広く評価されるようになればと思っています。

北海道花き・野菜技術研修課題解決研修

花・野菜新技術セミナーが開催されました。

２月５、６日の２日間、当センターの講堂において、「花・野菜に関する明日への技術」と題して花・野菜新技術セミナーを開催しました。

５日は、野菜部門、病虫部門で、野菜は、メロンの新品種候補「空知交５号」やたまねぎの新作型である「秋まき栽培技術」など。病害虫部門は「たまねぎのりん片腐敗病に対する防除対策」や「北海道におけるコナガの殺虫剤感受性の現状と有効薬剤の探索」などを紹介。

６日は、土壌肥料部門、花き部門で、土壌肥料部門は、「被覆型緩効性肥料の窒素溶出特性と野菜栽培への利用」、「ごぼうの省力安定生産技術」など。花き部門は、「アルストロメリア、デルフィニウム、スプレーカーネーションなどの品種特性」や「ヒートポンプ利用による地温制御、電照によるアルストロメリアの開花調節」などを紹介しました。

なお、出席者は５日が７９名、６日が９７名と多数の方に参加していただきました。

ヤツメ（八目）うなぎ

吸盤状の口、胸にも腹にもヒレがない怪奇な魚で、眼の後方に並ぶ７個の鰓孔が恰も眼のように見えることからヤツメと呼ばれている。道内には２種類が棲息しているが、カワヤツメが一般的で、日本海に注ぐ川に多い。成魚は産卵のために清流を遡上し、田植えの頃が盛期に当たる。河川の汚染が取りざたされる以前には、川の小さな堰の前で大群を形成し、昼休みには早乙女達が軍手を片手に群の後方に忍びよって、手際よく抜き挙げていた。その時期、針金に通したヤツメの簾が軒下を覆うのが風物詩であったが、長いものが苦手であった小生には、特有の臭いもあって、近寄り難いものの１つであった。

ところが、夕飯の誘いを受けたある夜、運命的な出会いが待ち受けていた。なんと、薪ストーブの上で脂を流しながら焼かれていたのはヤツメ。愕然とするなかでの追い打ちは、なみなみと注がれたコップ酒との二者択一であった。その夜から、永い永い酒とのつき合いが始まるきっかけとなった（憎き？）奴メ。だが時折、路地裏の赤チョウチンに「やつめ」の文字を見かけると、何故かノスタルジックな思いに耽る昨今である。

（病虫科　小高　登）

編集後記

◆連日の長野オリンピックを食い入るように見ていた私。清水の熱き走りに涙を流し、原田のジャンプに歓喜した。オリンピックもあっという間に終わり、ふと現実にかえるとふらべじの編集が。あわてて編集作業を行いましたがはたして満足できるものになったかどうか。これでふらべじの編集ともお別れです。２年間ありがとうございました。（Ｈ．Ｈ）

◆滝川もようやく冬の終わりを迎えようとしていますが、私は春を待たずして「春眠暁を覚えず」です。ただ、夏でも秋でも眠たいのは変わらないのですが。（Ｔ）

◆何という寒さでしょうか？朝起きると、車のバッテリーは当然のようにあがっている。寮の同居人の助けで何とか発進すると、今度はボンネットから湯気がモウモウと・・・。ラジエーターファンが凍り付き、割れてしまったのでした。今日は代車で出勤です。（Ｇｏ）

◆滝川で２度目の冬。滝川の冬は雪が多くて大変だけど、だからこそ春の訪れがいっそう素晴らしく感じます。春まであと少し。雪が解ける前にスノーボードがうまくなりたい！（Ms.Clear）

◆、連日の出張で３週間ぶりに出勤しました。職場でのこの空白の時間をどう埋めようか迷ってしまいます。３月もまた、出張です。（03）